

・誰でもわかる がん講座・100

・子宮頸がんとHPV(ヒトパピローマウイルス)・

最近の医学の進歩により、若い女性に多い子宮頸がんの原因がHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルス感染であることが分かっています。この発見が、子宮頸がんの診断・予防に大きく2つの進歩をもたらしました。第一に、子宮頸がん検診へのHPV検査の導入です。HPV検査を組み入れることで、より正確に子宮頸がんの前がん病変を診断できるようになりました。またHPVがない場合は子宮頸がんの心配は数年先までありません。第二に子宮頸がん予防ワクチンの開発です。HPVに感染しなければ子宮頸がんにはならないの

で、HPVのウイルス感染予防ワクチンは、子宮頸がん予防ワクチンになります。子宮頸がん検診とHPVワクチンが最も普及しているオーストラリアでは、2028年までに子宮頸がんをほぼ撲滅できると試算しています。日本でもHPVワクチンは、小学校6年生～高校1年生の女性を対象年齢に、法律に基づいて実施する定期接種として公費(市町村負担)で接種することができます。対象年齢の方には、公費でのHPVワクチン接種をお勧めします。

産婦人科 主任医長 角田 肇